

# 相手認証における安全性に関する調査

## Survey on Security in Identity Authentication

楊璐伊・ネットワーク分科会・情報セキュリティ大学院大学

### 1. 研究背景・目的

オンライン上でも実在する本人を前提としたサービスが増加し、すでになんらかの認証方式が存在し、認証方式によってセキュリティ上の特徴や使い勝手が異なる。これまで多くの研究がなされていて、様々なことがわかっている。NIST SP800-63-3によると、一般的に3つの認証要素を確認してきた。認証要素によって攻撃される難易度に差がある。だから明らかにしたい。インターネットにおいて提供されるサービスを受けるため、多くのIDが発行されている。しかし、各個人が管理できるIDの数は限られており、そのため、IDを連携したサービスの提供に期待が寄せられている。それについてから考えると、ユーザの利便性は高まる同時に、安全性が高くなるということが言えるのではないだろうかと推測される。本研究は、この仮説が正しいかどうかを検証した対策を目的とする。なぜならば、このことを明らかにすることでIDを連携したことはユーザが安心して安全にサービスを利用できる環境づくりということに役立つからである。

### 2. 研究計画

まず、目標対象を確認する。

次に、ID連携環境における目標対象の安全性を分析するための攻撃される難易度値を用いた、目標対象への具体的なアプローチ。

最後に、もしそうであるならば、ID連携環境でのより良い対策があるのかどうかの可能であれば。